

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	松田 尚実 (まつだ なおみ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院人間科学研究科 修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2022年 10月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会 第48回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	松田尚実, 富田望, 南出歩美, 熊野宏昭
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	過剰適応に関するメタ認知的・道具的信念尺度の信頼性および妥当性の再検討
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>過剰適応への介入効果が検討されている心理療法にメタ認知療法 (Metacognitive Therapy: MCT) がある (Wells, 2009 熊野他監訳, 2012)。MCT では、認知過程に関する信念のメタ認知的信念、対処行動に関する信念の道具的信念に焦点を当てた介入を行う (熊野, 2012)。松田他 (2021) は、過剰適応に特異的なメタ認知的・道具的信念を測定する尺度を作成したが、標本数の不足や再検査信頼性の検討という課題が残った。そこで、本研究では上記の課題点をふまえ、過剰適応に関するメタ認知的・道具的信念を測定する尺度の改訂を行い、その研究結果を発表した。</p> <p>妥当性および内的整合性の検討については大学生 138 名、再検査信頼性の検討については大学生 25 名 を解析の対象とした。その結果、「過剰適応に関するメタ認知的信念尺度」と「過剰適応に関する道具的信念尺度」が作成され、概ね信頼性と妥当性が示された。松田他 (2021) から、標本数を追加して再検討した結果、項目数や内容に偏りがあった点、妥当性と信頼性においても概ね改善が見られた。今後は本尺度を用いて、MCT での過剰適応への支援方法について検討する必要がある。</p> <p>本発表で、過剰適応に介入する臨床的意義や、MCT を用いる意義についてディスカッションを行ったことにより、今後の展望が精緻化された。</p>	

※無断転載禁止